

相並、次開辛櫃次第取出之、入蓋置御前、今一合同前顯世參、次第開蓋各入黒、覽了掩蓋、悉如元納之、次入内公卿等退出、於鬼間内々委見之、關白、信嗣、公衛等卿在之一具撰留之、仁治、正元等被用是之、由信嗣卿申之、

御冠 不及殊破損、正元被修理之歟、

大袖 紫色也、有繡日月七星等也、

小袖 同色也、無繡文、

御裳 同色、有繡文、

牙御笏入錦袋

御襪 白地錦一具

御舄 赤皮以金銅爲飾、

綬 一具

玉佩 二筋也

已上入唐櫃一合、内々進置御所、自餘等今夜即返納禮服倉、

今夜禮服御覽遅々間及曉更、上卿藤中納言參議爲方云々略

〔御湯殿の上の日記〕永祿三年正月十五日、らいふく御らんのくぎやう、關白さ大臣、ひろはし、かん

中納言源中納言五人、みなせ六人也、玉冠右中辨すけふさ、らいふくの御からびつ權中納言、つね

もさ右少辨、はれさよ頭辨、よりふさ御からびつのふうをとく、頭左中辨淳光一はん、頭辨御らい

ふく持參、五位職事三人いづれも持參、らいふく御らんの時、右少辨晴さよ、まそくととる、頭辨御

からびつのふうをとく時、極薦まそくととる略、中らいふく御らんも夜半の過なり、くわんぱく

より三色三か參る、御みまにて二こん參る、御はいせん三條少將公隆てながつれもさ、くわんぱ

くはいせん、公遠朝臣、宗房朝臣なり、らいふく御らんのときの御物のくの御ゑもん、永相朝臣、御

まへゑもんくわんまゆ寺中納言晴秀、師より冬の御なをしいできて參る、

〔御昇壇記〕寶永七年十一月九日、禮服御覽略、中禮服御覽次第、

先五位藏人二人、向内藏寮、取出御禮服辛櫃、及御冠筥二合、御冠筥二合内藏寮下部著退、持之、到門